図書館部報

岡崎市現職研修委員会
学 校 図 書 館 部
平成２６年１２月１８日
No. ３

作者・訳者からのメッセージ

現職研修委員会学校図書館部部長
東海中学校　中村　公治

今年度も多くの児童生徒が読書感想文・読書感想画コンクールに参加してくれました。岡崎の子供たちの作品は、毎年コンクールで高い評価を受けています。県での表彰はもとより、全国で表彰されることもしばしばあります。それらを掲載した作品集が、今年度で５０集記念号になります。

ちょうど２０年前、３０集記念号の編集に世話係の一人として私もかかわりました。当時、部長の高木良和校長先生、指導員でいらっしゃった鈴木純子先生のご提案で、「児童文学作家からのメッセージ」を記念号特集として掲載することになりました。私も担当者として、その企画に参加させていただいたことが懐かしく思い出されます。以来、２０年にわたって、「作者・訳者からのメッセージ」は、岡崎の読書感想文集の特色の一つとなっています。

今年度も、１０名の作家の方々が、執筆をご快諾くださいました。その方々にはコンクールに応募された読書感想文のコピーをお送りしたのですが、寄稿文とともに、感想を添えてくださる方がいらっしゃいました。その一部を紹介します。

「（前略）ほんとうにしっかり書かれていて感激しました。４年生…、すごいです。チャボ当番のことを引き合いにして、反省の気持ちを書いてくれました。なんかほろりとしました。そしてとてもうれしかったです。相手の気持ちを思いやること、それが大きなテーマだったので、きちんと読んでいただいて作家冥利につきます。書いてよかった！としみじみ思いました。」（『ともだちは、サティー！』の作者・大塚篤子さん）

また、『時をつなぐおもちゃの犬』の訳者の杉田七重さんからも、次のようなご返事をいただきました。

「（前略）拙訳書を丁寧に読みこんで、胸に湧き上がった感動を素直に言葉にされている。読みながら、胸が熱くなりました。これを励みに、今後も若い人の心を動かす作品を一冊でも多く訳していきたいと決意を新たにしました。（後略）」

その他の方々からも、作品集の出来上がりを楽しみにしているという旨の言葉をたくさんいただきました。岡崎の子供たちの感想文が、作家の方々の心にもしっかり届いていることを感じ、指導する私たちにとっても大きな励みとなります。これからも、読書に親しみ自分の思いをまとめる活動を通して、一人一人の子供たちが豊かな心を育んでいけるよう環境整備に努めていきたいと思いました。

５０集記念号の編集作業も順調に進んでいるようです。今年もすてきな作品集が出来上がりそうです。

第64次教育研究集会愛知大会に参加して

県教研に参加させていただいて、他市の学校図書館教育の様子を知ることができました。読書の幅を広げられるように分類番号を意識させたり、家族と読む「うちどく」を推奨したりするなど、本好きな子を育てるための工夫がなされた実践報告が多くありました。また、調べ学習などでたくさんの本を利用したいときに、公共図書館の団体貸し出しの利用に加え、学校間貸借を行っている地区もあり、大変興味深く聞きました。

助言の先生は、先日行われた学力調査の結果をふまえ、読書の大切さについてお話されました。たくさんの本に触れ、文章から情景を想像したり、登場人物の気持ちを考えたりすることを普段から行っていれば、自ずと文章題は解けるようになるのではないかとのことでした。そのお話を聞き、これからも、子供たちが少しでも多くの本に触れることができるような手だてを講じていきたいと思いました。

＜矢作西小　丹下知佐子＞

県教研では、意欲的に図書室経営や図書資料を利用した授業づくりに取り組んでみえる先生方の実践を知ることができ、刺激を受けました。

中でも、読書の幅が狭い児童・生徒の実態に目を向けた実践が多く報告されました。読んだ本の感想を書いた紙を、分類番号別に模造紙に貼って紹介し合う方法は、児童・生徒が自身の読書傾向を視覚的に理解できる良い方法であると感じました。

討論では、道徳の授業での図書資料の活用について多く話し合われました。特に絵本は、児童・生徒の実生活に寄り添った内容が多く、挿絵によりイメージを湧かせやすいという点で、活用しやすいという意見が出ました。これからも図書資料を活用した授業実践を積み重ねていきたいと思います。

＜矢作北中　伊藤　千世＞

◆下山小学校での文化委員会の活動を紹介します

本校では、６月と１１月に読書月間があります。読書月間のときには、文化委員会の５・６年児童が当番を決め、交代で、本の読み聞かせを行います。

読み聞かせをして、もっと図書室を使ってもらえるようにしたいという児童の願いから始まった「読み聞かせ」の企画は、今年で２年目になります。５分程度で読み終わり、聞き手に「面白かったよ」「お勧めだよ」と言ってもらえる本。そんな本を、児童が自分で選んでいます。練習は教師と当番児童がペアを組んで、まず、教師が読んでいる様子を見て真似してみます。そして、当番の読み聞かせ練習後、どうすれば、もっと読み聞かせが上手になるか、

アドバイスをもらいます。その積み重ねをすることで、児童の読み聞かせの力は伸びていきます。また、次の読み聞かせは何にしようかと考えるため、進んで本を手に取るということにもつながっていっています。このように、児童が考えたことを実現させるということを通して、委員会活動や読書活動をより充実させていきたいと考えています。

〈下山小　森　綾子〉